

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

福玉便り

ふく たま だより



2020年4月1日発行

発行:『福玉便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会

協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21 ときわ会館1F TEL080-4331-0290

9回目の3・11。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、まん延防止や安全確保の観点から、さまざまなイベントが中止されています。「東日本大震災に咲く会 ひまわり」は、毎年、手作りの温かい追悼式を行なっていました。しかし、今年は、新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれていました。

東日本大震災に咲く会 ひまわり 3・11追悼式報告

当初の予定では、上尾市にある龍山院というお寺の本堂の中で開催し、第一部では、埼玉県職員や、福島県職員による式辞、浪江町長からの手紙の読み上げ、第二部では、避難した方が作った里芋を参列者に振る舞う予定でした。しかし、開催数日前に埼玉県職員が橋さんのもとを訪れ、「新型コロナウイルスの影響で、県主催の行事は中止になっています」という報告が。そのため、職員が来られるかどうか分からないとも伝えられました。

「県主催」ではなく、「ひまわり」主催だから、やってもいいんですよ、とは言われ、開催の可能性を探り続けた代表の橋光顕さん(54)。マスクや消毒液を入りに口に設置したらいいのではないかと考え、必死に探し、東北の友人にも「売ってないか?」と聞きましたが、手に入りません。龍山院の住職にも、話に行きました。橋さん



は、もし中止にした場合、知らずに来てしまう人がいるかもしれないので、入り口で「中止になりました」と伝えるために場所は貸してほしかったのです。すると、「いいですよ。中止になったら残念ですが、私は毎年、3月11日14時46分に鐘を叩いていますから、どう

なっても鐘はつきます」と住職は話してくださったそうです。橋さんは、その言葉を嬉し



富岡町から上尾市に避難している渡辺哲雄さん(71)も埼玉県の暮らしが9年になりました。富岡町の自宅も更地にしてしま

た。この日、開催を知った埼玉県住宅課の職員・福島県職員も、黙祷のために参列していたことを橋さんは嬉しく思っていました。散会后、橋さんと数人の参列者としらこぼと団地の公園へ行くと、2013年3月に植えた桜の花が咲いていました。(編集部・吉田)



『福玉便り』 読者の声から

『福玉便り』2・3号に、お声を聴かせてください」はがきを同封し、期間が短い中、50枚のお返事をいただきました。ありがとうございます。

昨年度もはがき同封とお声の紹介を行いました(2019年3&4月春の特別号)。今回はイメージしやすいようにと項目を設け、項目ごとにご自由に記載していただく書式にしました。項目は日本弁護士連合会災害復興支援委員会が作成した『被災者生活再建ノート』を参考にしました。

自分の状況や思いを書きこむことは大変エネルギーを要する作業ですから、項目ごと細かく書くのは大変!という印象を与えてしまったでしょうか。『ノート』の本来の使用方法のように、お目にかかって項目ごとにお話を伺いながら、私らが書き込んでいくの

が望ましかったかもしれません。復興支援員さんらの戸別訪問も行われているので、その際に伝えていけると重なつたかもしれませんね。一方で、そうした機会が持てない方もおられると思います。今回は編集上、期日を区切りましたが、今後、お困り事や質問、住所変更等ございましたらなんでも構いません、いつでもこのはがきをお使いください。その締め切りはありません。近況報告も大歓迎です。返信していただいた方、「」だけだった方も、お電話で「続き」や「詳細」をお知らせいただければ嬉しいです。

今号では現時点でいただいた声をご紹介します。紙面の関係で一部だけの掲載となったことをお許しください。(編集部・薄井)

現在、気になっておられることはございますか?

仕事について

- ・定年退職後の年金暮らしです。(双葉町、60代男性)
- ・孫が4人いて、それで頑張っています。(大船渡市、70代以上女性)

- ・持っている資格を活かした仕事をしたいが、住所などの変更となかなか前に進まない。(南相馬市、40代女性)
- ・英語教師を望みますが、無い。(仙台市、60代男性)
- ・長男が仕事に悩んでいるよう

です。親も近くが良くわからないので、どこの仕事が良いのかわからない。(石巻市、50代女性)

健康・医療について

- ・入院・手術して休養中です。(南相馬市、70代以上男性)
- ・何十年も続いている咳の心配。(富岡町、70代以上女性)
- ・年齢の為に何か?そっちこっち悪い。(地域未記入、女性)
- ・難病にかかっているので、体調の管理に一番時間をかけている。(南相馬市、70代以上男性)
- ・今のところ健康には問題はないが、帰っても医者が医院がない。(浪江町、70代以上男性)
- ・住民票を移動していないため不安。福島と埼玉2つあればと思う。(楢葉町、70代以上男性)
- ・3・11時、原発から5キロの職場に勤務しておりまして、翌日まで(町)から脱出できるまで(スタッフと共に避難しており、メルタダウンから10時間以上経っていたことが不安になることがあります。(浪江町、60代女性)

- ・最近虚しさが身にしみます。(浪江町、60代女性)
- ・近くにダンス教室等があると気分転換になれるのですが、難しいです(土・日・祝日は)。(浪江町、60代女性)
- ・毎日単調です(南相馬市、70代以上男性)

地域・交友関係について

- ・趣味の会で近所の方々にお世話になっていきます。(南相馬市、70代以上男性)
- ・埼玉にきてから地域の方と交流はありません。(浪江町、50代女性)
- ・なし。ここは近所付き合いが無いです。(浪江町、70代以上女性)
- ・近所に同年代の人が少なく、お話しする相手がありません。一日中主人と2人だけです。(南相馬市、70代以上女性)

支援の希望について

- ・お話しできる場(楢葉町、70代以上男性)
- ・今困っている事についてグループミーティングできる機会が土日等にあるといいです(福島市、50歳代女性)
- ・市役所福祉政策課にお願いしたいと思いますが、狭山市にも避難者はいると思っていますので、一度集まりを開催していただきたいです。(南相馬市、70代以上女性)

日常生活について

- ・生活環境に慣れ、不便を感じていない。(浪江町、60代男性)
- ・仕事も定職し、子育て、精神的にも安定してきました。(浪江町、40代女性)
- ・一人暮らしなので不安があり

経済面について

- ・何とか年金暮らし。(南相馬市、70代以上女性)
- ・特に困ることはないが、息がつかまるときもある。(双葉町、60代男性)
- ・収入がないので将来が不安。(南相馬市、70代以上男性)
- ・月に1回でもいいから家に来てほしい。(双葉郡、60代女性)
- ・福島との行ったり来たりがもつと楽になればと思う。時間もかかるし疲れる。(南相馬市、40代女性)
- ・私たちが年をとっていくの

で、若者(子供)達や障害のある私の子供はこれからどうなるのか心配です。(石巻市、50代女性)

福島の家は解体しているの
で、住宅や生活の保障や援助
をして欲しいです。(富岡町、
70代以上女性)

お一人ひとりの生活も、そ
で抱える思いも一つとして同
じものがありません。「健康」
「良好」という声に安堵する一
方で、気がかりな声もありま
した。今回は匿名での返信です
で、個別にご連絡いただき、ま
ずは実情をお聞かせいただけ
れば幸いです。ご要望に関して
すぐに対応できることばかり
ではございませんが、今後の取
組や関係機関等につなげてい
きたいと考えております。

「最近感じていること」の欄に
は多くの方が今の想いを寄せ
ていただきました。

・9年が経ち、すっかり埼玉県
人に成りつつあります。まわ
りの人たちや田舎の人、家族
(兄弟や母)感謝しつつ、健康
が第一と毎日を過ごしていま
す。(双葉町、60代女性)
・光陰矢のごとしと申します
が、あれから9年…語るに語
れない出来事に、ふるさとの
無事を祈ることのみの毎日で

す。返信せずにいて申し訳ご
ざいませんでした。心の奥深
い所で、スルーしたかったの
かもしれません。I am sorry.

(大熊町、60代女性)

日々経過とともに生活に慣れ
て来ましたが、不安が付きま
とい、福玉便り」等古里の事、
避難者の方などの記事を見る
と心やすまる思いが致しま
す。何故何時までも災害の事、
古里の事、不安が引き摺って
いるのか、自分でも判りませ
ん。(楢葉町、70代以上男性)

福玉便りなので、石巻の者が
意見をいいのかなと思ってい
ますが…宮城県には家はなく
なりましたが、お墓がありま
す。遠くてなかなか行けなく
て、行くたびにお金もかかる
のでなにかと大変なことです
よね。福島の方、それぞれ震
災にあわれた方、お体に気を
つけてください。(石巻市、50
代女性)

と思っています。(楢葉町、70
代以上女性)

崩れ落ちた家でも、在ること
が心の支えでしたが、解体さ
れなくなってしまうので、
心さびしい思いです。納得は
しているのですが、心に穴が
あくとはこついつことかと実
感しています。(双葉町、70代
以上女性)

遠くはなれてしまい、福島に
帰るのは困難になってしまし
た。ふるさととは帰れないふる
さとであっても夢のふるさと
になります。今生きている所
を大事にして生きていきたいで
す。悲しいですね。(双葉郡、60
代女性)

あの地震から9年。今年にな
って、小学二年生の息子の成
長の写真を探しながら、震災

を振り返りました。ベストの
選択とはどのような物だった
のかなと、思うのですが、埼玉
に避難した事は良かったと思
います。…震災の混乱からよ
うやく落ち着いて、自分の居
場所を見つけた子どもから、
地域のコミュニティーを奪わ
ないでほしい。親としてふが
いないけれど、9年の避難生
活で蓄えも尽きかけていま
す。埼玉に居る事で迷惑もお
掛けしているのかなと、思う
ときも有りますが、各地の裁
判(埼玉も頑張っています。傍
聴にきてください)が進む中
で、新たに事実も出てきてい
ます。もうしばらく暖かい目
で見守っていただけると有り
難いです。(郡山市、男性)

戸建て予定計画証明書や建築
中の証明書を出した者には、
来年3月まで借り上げ制度が
継続され、できない者には今
年3月で打ち切りということ
に非常に矛盾を感じていま
す。室内で食事をしている時
やぼーっとしている時に涙が
流れてくることがあります。
(浪江町、60代女性)

はどうなっていくのか?知り
たいです!!(富岡町、70代以上
男性)

・当事者の状況は様々ですが、
世間の考える時間の経過と私
たちの経過は違います。昨今
「もう10年になる」との一言が
とても辛くしんどいです。どん
どん重く焦り追い詰められて
います。(浪江町、40代男性)

・汚染土置き場が永久になんね
いように、あの黒い袋20袋も
国会議事堂の前においてやり
ていもんだ! (富岡町、70代以
上男性)

・先日3月4日ようやく双葉町
も一部解除(避難指示)にはな
ったが、東京電力は賠償問題
を早くけりをつけたいような
言動も多い。除染解体した町
に住むことはまだまだ困難。
(双葉町、60代男性)

夢や決意も。
早く帰って、又、農業をした
い。(浪江町、70代以上男性)

・最近では全国で災害が多く発生
しているの、震災で…と
言っても一体何のこと?とい
う顔をされることが多いな
り。機会がある毎に、私は震災
では…と語っていきたく
思います。(富岡町、40代女性)

『福玉便り』や交流会へのメッセージも多くいただきました。

いつも福玉便りを送ってくださり、ありがとうございます。震災の時、幼稚園の年長さんだった子どもが4月から高校生になりました。もう9年経つのですね。(郡山市、40代女性) 今後も皆様の声を伝えてください。(榎葉町、70代以上男性) 毎回楽しく拝見していますよ。(富岡町、70代以上女性) これからも続きますように！(双葉町、60代女性) 定期的に届けていただき、多くの情報を得ることができ、ありがたく思っている。(浪江町、60代男性) 福玉便りは私の心の絆でもあります。(浪江町、60代女性) 福玉便りを送っていたかったです。浪江町、70代以上女性) 避難当初、慣れない土地での住居に不安でしたが、御会で集会を開いて励ましをもらったり、旅行に連れて行って頂いたり、本当にありがたかったです。中々恩返しは出来ませんが、今後共よろしくお願ひ致します。(南相馬市、70代以上女性)

・運転が心配でふるさとへ帰ることができず、墓参りができなくなりました。先日はお世話になり、3年ぶりでお墓参りができました。有難うございました。(南相馬市、70代以上女性) 現在千葉県柏市に住んでいますが、埼玉の知人の配慮で春日部のカフェに加わらせていただいています。司法書士の方が常に参加しているので、9年目に気づいた相続の事等相談することができ、本当に助かっています。避難の年数が長くなるにしたがって悩み

も変化してきているので、話も聞いていただけることがとてもありがたいです。埼玉の皆さんの心遣いに感謝です。(南相馬市、60代女性) 時間と日時がなかなかあわないので参加できませんが、いつもありがとうございます。(石巻市、50代女性) 編集部への暖かい言葉に力をいただきました。もちろんきびしい声もいただきました。何を支援するのですか。当初より支援は何もありません！(地域未記入70代以上男性)

・最初から支援はなかった。(地域未記入70代以上女性) 昨年度に届いた「声を聞いて現実的に何ができるのでしようか。疑問です」「有益な情報がなくなんだかよくわからない」というご指摘の声をこの一年間忘れたことはありません。皆さんの声を受け取ったものとして、それぞれの暮らしの实际情况に見合った情報を届けているか問い続けながら、送り続けます。9年たっても、変わらずこれからも。

「東日本大震災遺児支援

かながるーの会」活動報告

事務局 新谷泰子

2012年の「第10回 WFFI onさいたまフェスティバル」から参加しております当会は、宮城県石巻好文館高等学校(旧：石巻女子高)の同窓生4名が発起人です。松尾喜久子・小林美恵子・佐々木美紀そして新谷が、専門分野を活かし活動を続けております。

皆様ご存じの通り、2011年3月11日の津波で、東北3県の子ども達は大切な親を亡くし

ました。宮城県をふるさとに持つ私達は、その年5月に会を立ち上げ、7月に第1回のチャリティイベントを行い、バザーを開き、寄付を募り、10年間の活動を誓い合いました。

当時の厚労省の調査では、大震災で父か母が死亡または行方不明となった震災遺児は1464人、両親とも失った孤児は241人に上りました。ふるさとへの支援も考えましたが、4人の話

し合いで、一番弱い立場の子ども達を支援することに決定するまで時間は掛かりませんでした。

また、10年間の活動期間を設定した理由ですが、4歳の子どもが10年経つてもまだ14歳。子どもを持つ私達には、無念な親の気持ちやどれほど痛く感じたからに他なりません。子ども達を声高に支援するのではなく、そっと見守り続けたい。そばで抱きしめてあげることが叶わなけれど、遠くから成長を見届けたい。それには10年間で短かったかも知れません。

発起人の佐々木は埼玉県在住

です。埼玉県男女共同参画で活動している浅倉愛子様にお誘いを受け、フェスティバルにバザー参加するご縁をいただきました。

「さいがいつながりカフェ」を通じて、埼玉へ避難していらっしゃる方々の中に同窓生もいらして、新たなつながりもございました。なにより、他団体で長く活動していらっしやる方々との出会いは新鮮で、大変勉強になりました。自分たちの活動を支える拠のひとつとなったように思います。年に一回の当会主催チャリティイベントは2020年で最終回としました。2020年3月現在で17,762,900円を

子ども達のために、様々な支援機関や団体に寄付しております。この収益金ですが、ご支援の皆様のお気持ちを全て子ども達に確実に渡すために、なるべく公の機関に寄付することで、一円の無駄もしない活動を続けてこられたように思います。

2021年3月まで私達の活動は続きますが、10年間の活動は、私達を成長させる10年間であったように思います。子ども達と皆様に感謝申し上げます。



